

金城学院創立120周年・金城学院大学設立60周年記念事業 進捗報告

充実した教育環境の 整備・拡充をめざして さまざまな新しい施設が完成

金城学院では学院創立120周年および大学設立60周年を記念し、さまざまな事業を計画・展開しています。大学ではより豊かなキャンパスライフのための整備やすばらしい自然環境を守る里山の整備が行われ、さらに「聖書の庭」も設置されました。また中学校では礼拝堂と同窓会館を有するシンボリックな建物を着工、幼稚園では子どもたちのための道づくりが行われています。今回はこれらの事業についてご紹介いたします。

大学キャンパス整備

念願のグラウンドが完成 エスカレーターや東門整備も

自然環境の保全とともに、女子大学としてふさわしいアメニティの向上も追求しています。その一環として昨年の夏には、学生からの強い要望に応え図書館北側にグラウンドを新設。美しい緑の芝生が敷き詰められたグラウンドには夜間照明も完備。快適な環境のもと、学生たちは授業や部活動に励んでいます。

また今回、本部棟1階と3階を直接結ぶエスカレーターも設置されました。このエスカレーターによって

移動が楽になり、利便性も向上しています。

さらに、通学時の安全を守るため南^{なんごう}鼻寮前の門扉を閉鎖、本学への東側からのアプローチ利用を促進するよう東門を整備。学生および地域の方々の安全性の向上のため、公道に沿って本部棟から第1駐車場に抜ける歩道も整備しました。今後もなお一層の充実を図り、快適な環境を整備してまいります。



グラウンド



東門



歩道

金城学院大学里山整備計画 炭焼き小屋が完成

豊かで広大な自然環境に恵まれた大学キャンパス。世界的にも希少な植物が分布する八竜湿地にも隣接し、すばらしい自然空間が構築されています。120周年という記念すべき機会にキャンパスを今一度見直し、人と自然が共生できる里山にしようとして「KSC（金城里山コンサベーション）」が発足、教職員と学生が中心となって里山

整備を行っています。

林の間伐や植栽、地域の方々が気軽に自然を楽しめるようにと大学の自然環境を案内するシステムを構築するなど、さまざまな取り組みを行っていますが、その中のひとつとして昨年10月に炭焼き小屋が完成しました。これはキャンパス内の伐採した竹を竹炭に再生することを目的に作られ

たもの。

このような取り組みは、今世界中で行われている地球温暖化問題や生物多様性の喪失の問題にも深く関わります。今後も里山整備を通して豊かな大学キャンパスの自然を保護するとともに、学生自身が自分の問題として環境問題に取り組んでいけるよう活動していく予定です。



聖書にまつわる草木も植えられている、聖書の庭

聖書の庭

聖書の草花と噴水に彩られた学生たちの憩いの場

キリスト教を基盤とする大学にふさわしく、今年の3月にE4号館とE5号館の校舎間に広がる西側広場に「聖書の庭」が完成。聖書にまつわる草木（オリーブ、クルミ、イチジク、ユリ、

ルッコラなど28種類）が植栽され、また庭の中央には大学父母会から寄贈された噴水が設置されました。

それに先立ちこの噴水の愛称を学内で公募、文学部英語英米文化学科

4年生の野村なつ希さんによる「叡智の泉」に決まりました。美しく湧き溢れる噴水のように知性溢れる学生たちが集い、学び、語らう憩いの場として利用されています。

中学校礼拝堂・同窓会館起工

質の高い教育をめざし 中学校にシンボリックな建物を

中学校ではこれまで刻まれた歴史を生かしつつ校舎などの改修事業を重ねてまいりましたが、金城学院創立120周年を機にシンボリックな建物を建築することとなりました。具体的には礼拝堂と多目的教室などの諸施設からなる3階建ての建物を建築します。建築場所は友愛館の北側と新たに2008年に購入した隣接地を加えた土地です。この新しい建物には同窓

会館の移転という目的も含まれています。金城学院の同窓会であるみどり野会はこれまで事務局本部を高校のみどり野館においていましたが、卒業生が増えて手狭になったこと、またその活動を中学校の教育の場に近づけることが双方にとって有益であることを考慮し、今回の移転が決められました。礼拝堂を含めたこの建物は中学校のシ



ンボリックとなるようなデザインとし、その景観は名鉄瀬戸線尼ヶ坂駅付近からもくっきりと浮かび上がって見えるものを予定。現在、着々と工事が進められ、今年12月中旬に竣工の予定です。

幼稚園南斜面こども道づくり

子どもたちが安心して自然とふれあえる道

豊かな自然に囲まれた幼稚園の南斜面は虫取りをはじめイチョウの落ち葉や水仙、さざんかの花などを拾い集めることのできる子どもたちの楽しい遊び場です。子どもたちは木々の間をくぐってさまざまな植物を見つけ

ては楽しみ、豊かな感性を育てています。そこでこれまで以上に子どもたちが安心して、遊びながら自然とふれあえるように「こども道」の整備を計画。植物や昆虫などの身近な自然とより親しむことができるようにするのとあわせて斜面の保全にも努めてまいります。

